

## 第3回 頸北地区の医療を考える会を開催しました <7/9(土) 柿崎地区公民館>

### 第1部 基調講演「地域が守る医療 一兵庫県丹波地域の住民の取り組み」 兵庫県丹波新聞記者 足立智和様

兵庫県丹波市にある中核病院・県立柏原病院では医師不足による勤務医の過酷な労働が続き、小児科存続の危機に瀕した時期がありましたが、医師をいたわるさまざまな住民運動により再生してきました。その過程をお話いただきました。

この地域のお母さん達による「小児科を守る会」が始めた活動は、地域に浸透し、医師の負担を軽減することに成功しました。休日や夜間の時間帯に緊急性がなく軽症で来院するコンビニ受診を控え、本当に重症な患者が受診するよう徹底して呼びかけ、受診の目安を冊子にしたものを幼児のいる全家庭に配布する取り組みをしました。その結果時間外受診は目に見えて減少、勤務医の負担が軽減し、その取り組みが評判となり、逆に勤務医が増えたということです。

そんなお母さんたちの熱意に触発され、この地域の医療を取り巻く住民参加型のネットワークが現在も広がっているそうです。

### 第2部 シンポジウム



- ①地域医療を支える住民活動の必要性—住民の立場から— 柿崎区 小出優子様
- ②地域医療を支える住民活動の必要性—記者の立場から— 上越タイムズ頸北支局長 筒井聡様
- ③地域医療と地域活動—患者会、老人会、ボランティアの活動を通して— 柿崎区旭寿会会長 菱輪憲之様
- ④地域に信頼される病院(地域愛着病院)を目指して—最近の取り組み紹介— 柿崎病院看護部長 小野塚久美子
- ⑤柿崎病院後援会の活動 柿崎病院後援会事務局長 中村修治様

シンポジストの皆さんからは、それぞれの立場から地域医療継続のために住民活動の必要性について意見を述べていただきました。過去のイメージとは違う柿崎病院の明るい雰囲気や職員間の風通しの良さに触れていただきながら、行事や新しい取り組みを通して地域へ発信し続ける姿勢を評価いただきました。また、柿崎病院を盛り上げる方法として、後援会活動をより活発にすること、住民側も従来からの意識を変えて、まずは地元の病院を利用すること等を提言されました。

#### 【院長よりひとこと】

ここ頸北地区は、新潟県の中でも医師の少ない地域です。限りある医療資源を守り、継続していくためには、この丹波地域のように医療者だけでなく住民、行政等が一体となり医師の定着する魅力ある地域になることが大切です。当院もさまざまな活動を通して地域との関わりを深めていくことに取り組んでいます。地域の皆様もどうぞ柿崎病院に足を運んでいただき、柿崎病院のことをもっと知っていただきたいと思っています。

## 外来診療担当表 (7月)

診療科	受付時間	月	火	水	木	金	
内科	午前 8:30~11:30	1診	藤森	藤森	藤森	庄子	木島
		2診	庄子	木島	新潟大学	木島	庄子
		3診	木島	庄子		藤森	
外科	午前 8:30~11:30	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	鈴木	
眼科 (予約制)	午前 8:30~11:00		寺松 診療9:30~12:00		大久保 診療9:00~12:00		
	午後 13:00~15:00			新潟大学 診療14:00~			
皮膚科	午前 8:30~11:00		濱田 診療9:00~				
	午後 13:00~15:00					労災病院 診療13:30~	
婦人科	午後 13:00~15:30					新潟大学 診療14:00~	
耳鼻 咽喉科	午後 13:00~15:00		新潟大学 診療13:30~			新潟大学 診療13:30~	
整形外科	午前 8:30~11:00		労災病院 診療10:00~	労災病院 診療10:00~			

●眼科は原則予約制となりますので、あらかじめ電話での予約をお願いします。(予約受付：平日午後2時~)  
ただし、火曜(寺松医師)、木曜(大久保医師)は事情によっては予約なしでも診察できますので、事前にお問い合わせください。  
●外来の予約変更のお電話は、平日午後2時以降にお願いします。

事務局より

本紙発行にあたっては、吉川高等特別支援学校の生徒さんからお手伝いをいただきました。😊  
ご協力に感謝申し上げます。

# 柿崎病院だより



発行日：平成23年8月1日  
発行元：新潟県立柿崎病院  
〒949-3216  
上越市柿崎区柿崎 6412-1  
TEL 025-536-3131  
FAX 025-536-3136  
ホームページ <http://www.kakizaki-hp.jp/>

## 地域医療病院としての

## 柿崎病院の広報活動への取り組み

### 診療部長 鈴木茂



柿崎病院は、地域に密着した『地域医療病院』として、積極的に広報活動を行っています。

広報紙「柿崎病院だより」は第1回が平成19年12月10日に発行され、以後5月、8月、11月、2月と年4回発行し、病院の近況、各診療科の診療時間や担当医の変更などの連絡、新任職員の紹介などを載せています。過去の「柿崎病院だより」は柿崎病院のホームページから全て見る(読む)ことができます。柿崎病院の歩みが良くわかります。「柿崎病院だより」も今号が16回目の発行となります。

地域講演会は毎年6月、10月、2月の第一土曜日に開催され、関心の高いがんや生活習慣病、インフルエンザなどを医師や看護師や検査技師、理学療法士がわかりやすく解説しています。ちなみに外科鈴木は昨年6月に「がん早期発見のために」と題して早期発見、早期治療の大切さを説明しましたが、今年6月には「もっと身近に！食道の病気の話」と題して食道癌の予防について解説しました。1年で早期発見早期治療から予防を話題とすることができるようになったことに、講演する立場としても感慨深いものがありました。また、地域講演会を継続することの大切さを実感しました。

「頸北地区の医療を考える会」も毎年1回、7月に外部から講師を招いて基調講演、頸北地区の住民、柿崎病院医師などによるシンポジウムを行っています。昨年7月10日には自治医科大学地域医療学センター一梶井英治教授をお招きしました。第3回目となる今年7月9日には兵庫県の地方紙「丹波新聞」の足立智和記者から「地域が守る医療」と題して、いかに住民運動が医療崩壊をくい止めたかという当事者ならではの話を聞くことができました。

地域患者会「まつかぜ友の会」は慢性呼吸不全患者さん、家族、協力してもらえる方の会で、会員相互の交流を通してQOL(日常生活の質)の向上を目指し活動しています。また健康・さわやか教室、地域の老人会などへ出向いての出前健康講座を開催しています。

その他、地域住民活動への参加として、柿崎区産業祭に毎年参加し、健康相談を実施しています。初めての試みとして、今年の6月22日にはお引き上げ民謡流しに柿崎病院として参加しました。

柿崎病院のホームページも充実させていきたいと考えています。今後ますますホームページが病院の情報発信の手段として重要になることは確実です。担当者が時間をかけて作成しています。小回りのきいた、なかなか良くできたホームページと思っています(アドレス:<http://www.kakizaki-hp.jp/>)。是非多くの人に見てもらいたいと思っています。外来・入院案内、過去の広報紙「柿崎病院だより」、地域講演会予定と過去の講演会の記録、病院ホットニュースや新着情報、当院で研修した先生(研修医)や医大生たちの感想も読むことができます。

最後に、病院職員一同、広報活動を含め柿崎病院の向上に努めて参りますので、よろしく願い申し上げます。



## 国難 柿崎区 真保医院 真保俊



2011年3月11日、午後の診察時間が始まるすこし前に、今までとは違うゆっくりとした何か不気味な揺れを感じた。その数十分後の巨大津波と引続き起こった東京電力福島第一原発の事故で、放射性物質の放出という深刻な事態が発生するとは予想だに出来なかった。地震と津波による悪夢のような大災害という現実に対し、直後から被災地の方々の努力と幅広い支援で、遠い道程ながら一歩ずつ復興、再生に向かっている。

一方、原発事故も連日大きく報道されているが、政府や東京電力による情報開示の不透明さや隠蔽体質が指摘されている。大変不幸なことだが、自然生活環境に放出された放射性物質で大気、土壌、海洋が確実に汚染されてしまった。そして今後長時間持続すると思われる健康への影響を考え対処しなければならない。東京電力は3号機の爆発前に燃料棒が溶融していた事実を約2ヵ月後の5月12日によく公表した。日本で開発されたSPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム)のデータを気象庁は公開せず、オーストリアやドイツの気象庁が配信したSPEEDIで、汚染大気の流れを初めて知ることとなった。

放射線被曝には、外部被曝と内部被曝がある。原爆が炸裂した瞬間の被曝、医療用X線検査が外部被曝で、一過性に私たちの体を貫く。内部被曝は、呼吸や飲食に際し体内に取り込まれた放射性物質から長時間、繰り返し照射されるアルファ線とベータ線による被曝である。私たちが意識しなければいけないのは、特に胎児と子どもに発症してくる晩発障害を引き起こす内部被曝である。(先天障害、悪性腫瘍など)ヨーロッパ放射線リスク委員会(ECRP)は内部被曝の例を以下のように挙げている。1)世界各地の原爆降下物による癌 2)原発や核廃棄物再処理工場周辺住民に発症した白血病 3)チェルノブイリ原発事故による先天性障害や癌 4)イラクでアメリカ、イギリスが使用した劣化ウラン弾による子どもたちの健康被害。

2011年4月6日から8日までベルリンで開かれたチェルノブイリ25周年国際会議のサイトで高濃度汚染地域の先天障害や悪性腫瘍発症の論文を読むことが出来る。

(<http://www.strahlentelex.de/tschernobylkongress-20011.htm>)

「直ちに健康に影響はない」などという解釈の仕様が言葉にこめられたある種の政治的意図を感じずにはいられない。国民の命と生活を守るべき政府の十分な対応策が出されない為、子供を持つ多くの若い母親たちが、不安の中、居住地の放射線量を計測し対処しようとしている。ある自治体は小中学生全員にガラスバッジ線量計を持たせた。また自治体独自の判断で住宅地の土壌の除染も始めている。

日本の原子力発電は、1954年、ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験による第五福竜丸乗組員の被曝事故があった翌年1955年にアメリカから日本政府への濃縮ウラン受入打診に始まる。折から日本全土に広がった原水爆禁止の声を打ち消すために「原子力の平和利用」をスローガンに、「原子力は必要」「原子力は安全」と、当時のY新聞社のS氏、後に総理大臣になったN代議員等が大々的なキャンペーンをはり原発推進政策を推し進めた。わずか10年前の広島、長崎への原爆投下を忘れてしまったかのように。水俣病に代表される公害問題、薬害問題等のこともある。どうしてこの国は学ばないのだろうか。どうして本気で議論しないのだろうか。どこか遠いところで起こっている出来事にしか写らないのだろうか。

話は飛躍するが、今回の原発事故での政府と東京電力の情報開示の曖昧さや不誠実さによってつる国民の不信感を思うと、医療事故における医療側と患者側との関係の類似点が見えてしまう。お互いの信頼関係を築くには、具体的にわかりやすく説明し、正確な情報を共有することが肝要であり、〇〇様などと薄気味の悪い敬称を使うことでは決してない。最後に、今日も事故現場で収束に向けて、高濃度の放射線に曝されながら日夜作業に追われている方々にとって深刻な事態が拡大しないことを祈っている。

附記 今朝は早起きをして、FIFA女子ワールドカップの決勝戦を観てしまった。世界ランキング1位のアメリカを相手に点を取られても取り返し、取られても取り返し、「なでしこジャパン」の決して諦めない精神の強さと、私たちがどこかに置き忘れてきてしまった“ひたむきさ”を見た。PK戦はアメリカの一番手、ボックス選手がキックする前にもう勝敗は見えていた。“なでしこジャパン”の戦いぶりは、きっと被災地の皆さんに何かをプレゼントしたに違いない。

## 新任者紹介



内科医師  
庄子 聡  
(しょうじさとし)



今年7月から柿崎病院勤務となりました、内科の庄子です。平成21年に新潟大学を卒業、臨床研修を経て、新潟大学病院第二内科に入局しました。医師としては3年目を迎えたばかりでまだまだ未熟ですが、ここでお世話になる間、柿崎の皆さんと一緒に成長していけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

私は生まれも育ちも宮城県仙台市です。大学入学当時は、卒業と同時に地元へ帰るつもりでした…しかし、新潟の住み心地の良さ、皆さんの人柄(十食べ物がおいしいから!?)に惹かれ、卒業後も新潟でお世話になっております。今ではすっかりこの地に慣れ、私の第二の故郷となりました。また、大学時代は合唱部で活動しており、素晴らしい仲間にも恵まれたことも大きいと思います。軽い気持ちで始めた合唱でしたが、いつの間にか熱中しており、6年間の大学生活は合唱がメインでした。卒業後も社会人の団体に所属したりしましたが、時間が許さず挫折…。またいつか歌う機会があればと思っています。

ところで、私の名前は「庄子(しょうじ)」と読みます。新潟に来てから、「しょうご」と間違われることがしばしば。さらに漢字も間違っ書かれることが多く、「庄司」と表記されることが多いです。地元仙台では、庄子さんは沢山いて全く珍しくないのですが…。せっかくなので、正しく覚えて下さいね!

## 柿病ニュース



中庭に花壇ができました



長年手つかずだった中庭を、職員・ボランティア・地域の皆さんでいっしょに整備し、花壇を作りました。天気が良い日は開放していますので、外来の待ち時間などに足をのぼしてみてください。  
※外来廊下突き当りを左折したところに入口があります。階段がありますので、お気をつけください。

### お引き上げ民謡流しに参加しました 【6月22日午後7時~】



柿崎区の大イベント報恩講お引き上げのフィナーレを飾る民謡流しに柿崎病院チームが初参加しました。

院長はじめ職員総勢29名が練り歩き、地域の皆さんから温かい声援をいただきました。

「柿崎ふれあい音頭」の振り付けは、柿崎区の峰村和子様にご指導いただきながら、勤務終了後に練習を重ねました。



### 七夕ハンドベルミニコンサートを行いました 【7月7日午後4時~】

1階待合ホールで職員によるハンドベルのミニコンサートを行いました。全員そろって演奏できたのは当日が初めてのため、曲が繋がらない部分も少しありましたが、ご近所の方や入院患者さん、よねやまの里の入所者の方等、皆さん口ずさみながら聞いてくださいました。



【演目：きらきら星、たなばたさま、夕焼け小焼け  
ふるさと、川の流れのように】

★夕食も七夕メニュー★ 栄養課では、郷土料理や季節感を大切にメニューを取り入れ、患者様に喜んでいただけるよう献立を工夫しています。7月7日の夕食は七夕にちなんで、常食の方には笹寿司を召し上がっていただきました。「季節感を感じられてとてもおいしかった」と温かいお言葉をいただきました。

